

■ ■ 中・高校生の性に関する調査 ■ ■

調査の概要

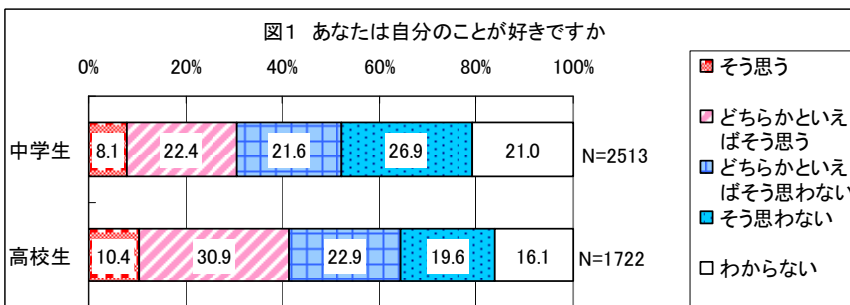
◇調査実施人数 札幌市立中学校 18校抽出 3学年 2,545人
 札幌市立高等学校全日制普通科6校 2学年 1,843人
 ◇調査期間 平成20年9月1日～9月30日

調査結果

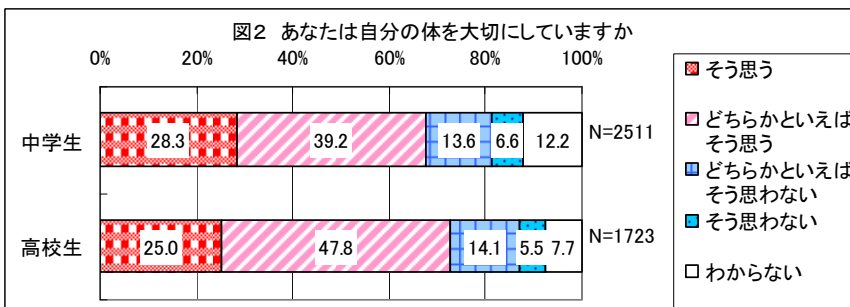
	調査実施人数	有効回答数	内訳		
			男子	女子	性別不明
中学校	2,545	2,535	1,278	1,251	6
高等学校	1,843	1,735	837	894	4

あなた自身と家族・家庭について

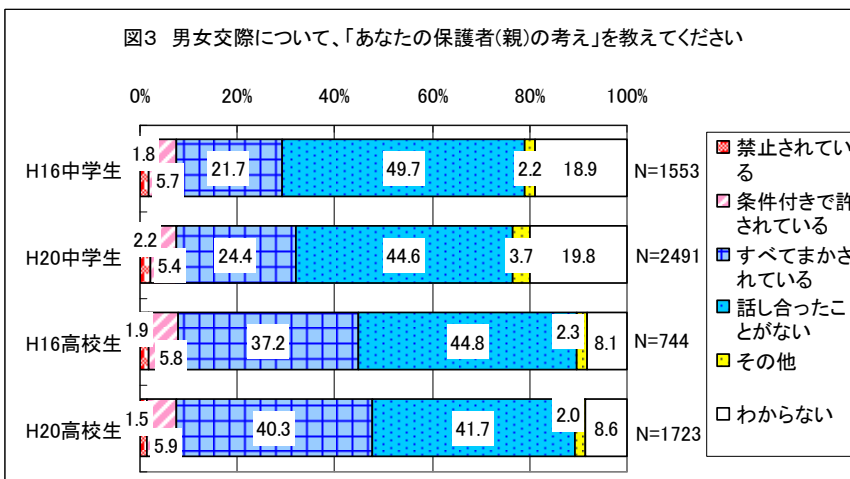
※以下の調査報告は、性別不明を除いた結果である。(表中のNは、有効回答数)



* 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた「自分のことを好き」と回答した者は、中学生 30.5%、高校生 41.3%で高校生が多くなっている。



* 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた「自分の体を大切にしている」と回答した者は、中学生よりも高校生が多くなっている。

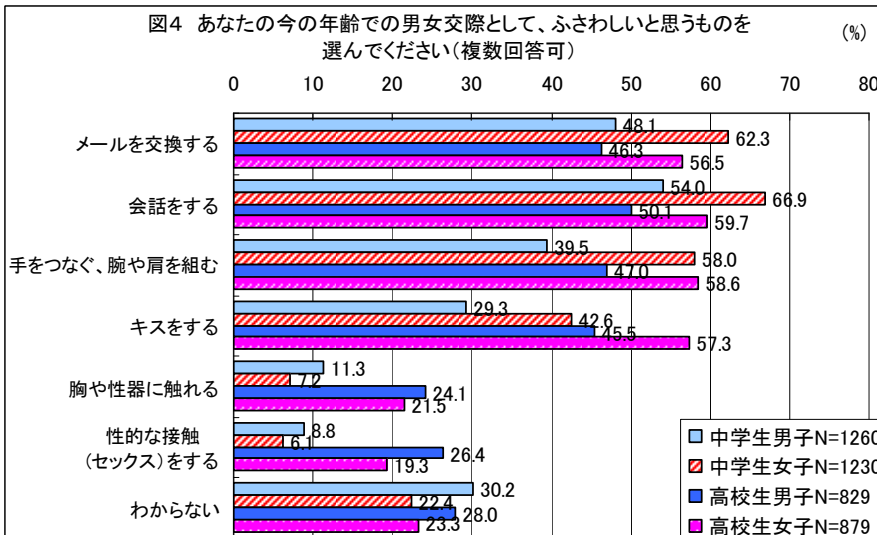


* 平成16年度の調査結果との比較では、中学生・高校生共「話し合ったことがない」はわずかに減少しているが、全体的にはあまり変化はみられない。

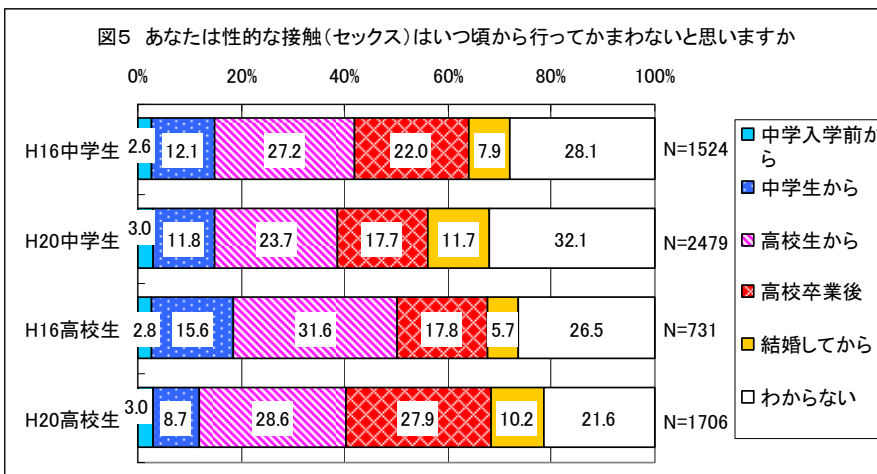
【まとめ】

「わからない」とした者は、各項目とも1割～2割おり、特に中学生に多い。
 グラフには示していないが、図1の「自分のことが好きか」については、中学生において「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた「自分のことが好きではない」とした者は、男子44.2%、女子53.0%であり有意な差がみられた。同様に、図2の「自分の体を大切にしているか」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた「自分の体を大切にしている」とした者は、中学男子64.4%、中学女子70.7%、高校男子68.8%、高校女子76.5%であり、中学生・高校生共に男女間で有意な差がみられた。

性についての考え



*中学生・高校生共に女子は「キスまで」と考えている者が多い。また、高校生で「性的な接触(セックス)まで」と回答した者は、男子26.4%、女子19.3%である。中学生より高校生の方が、また女子より男子の方が許容度が高い。

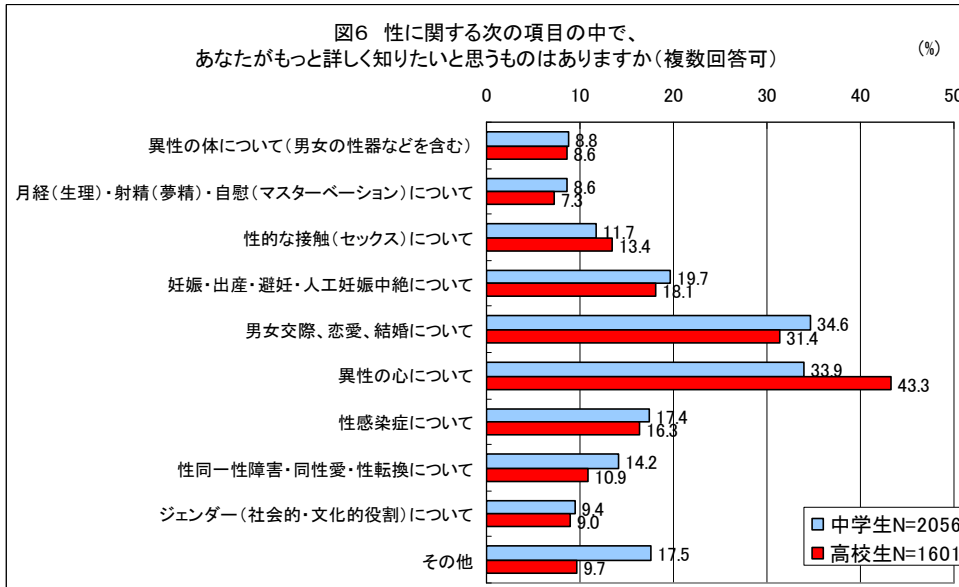


*平成16年度結果との比較では、中学生・高校生共に「中学生から」「高校生から」が減少し、「結婚してから」が増えている。

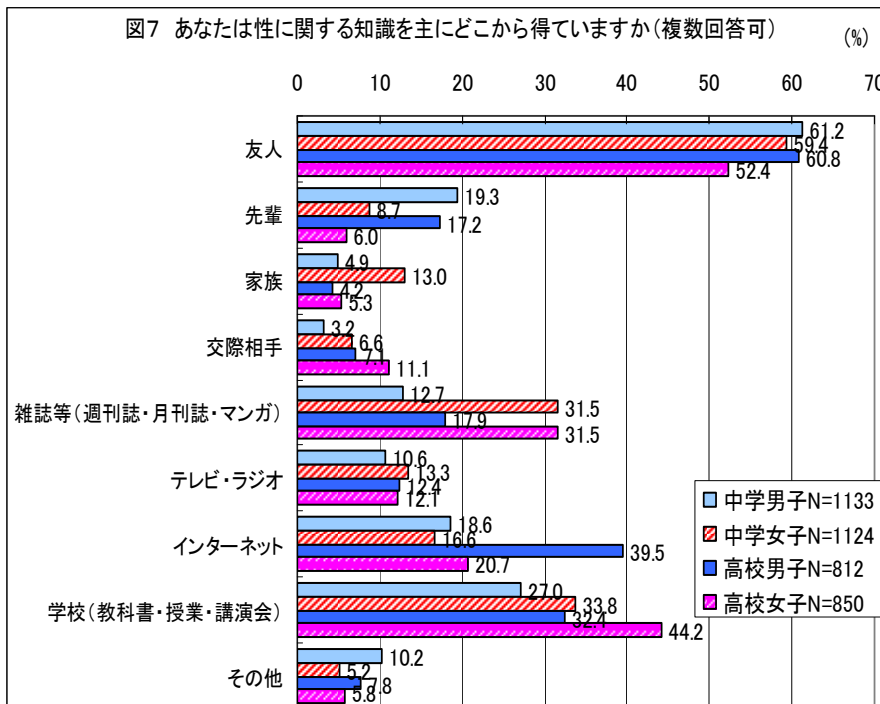
まとめ】

図4・図5より、全体的に性行動に関して慎重な考えを持つ者が増えているが、2割以上の者が「わからない」としていることも押さえておく必要がある。

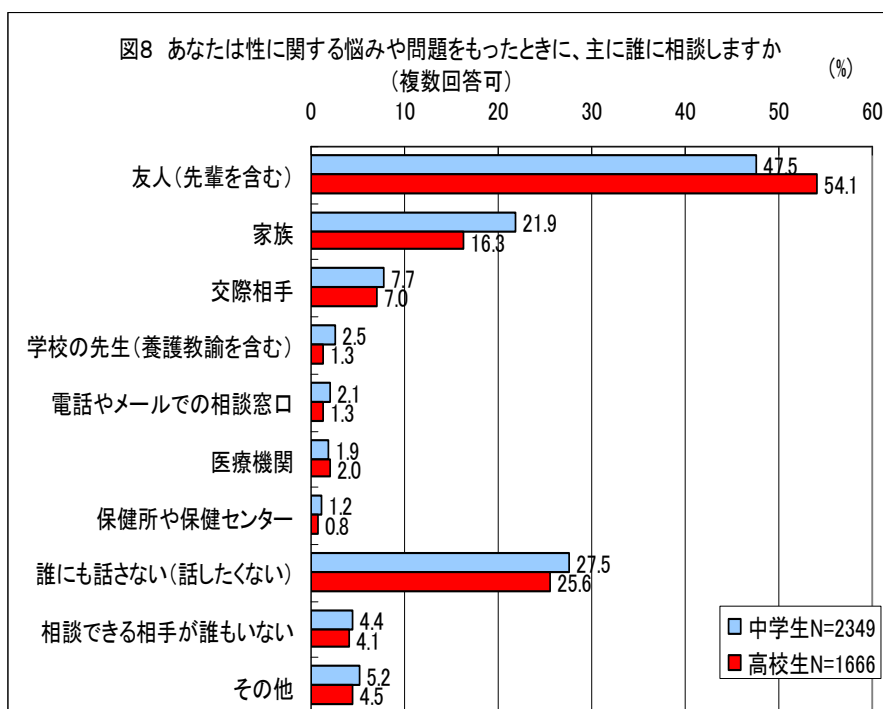
性に関すること



* 中学生・高校生共に「異性の心」、「男女交際・恋愛・結婚について」が多く、ついで、「妊娠・出産・避妊・人工妊娠中絶について」、「性感染症について」が続いている。



* 中学生・高校生共に「友人」が最も多い。男女別では男子は「先輩」、女子は「雑誌等(週刊誌・月刊誌・マンガ)」が多くなっている。また、高校男子では「インターネット」が多くなっている。



* 中学生・高校生共に「友人(先輩を含む)」が最も多い。また、「誰にも話さない(話したくない)」は中学生 27.5%、高校生 25.6%、「相談できる相手が誰もいない」は中学生 4.4%、高校生 4.1%となっている。

【まとめ】

図7で、「学校(教科書・授業・講演会)」から知識を得ているとした者は、3割から4割であり、これは平成16年度のほぼ同じ質問での調査結果、中学男子18.4%、中学女子22.2%、高校男子21.9%、高校女子31.1%より増加している。この結果から、学校教育の中での性教育の充実が図られてきていることがうかがわれる。また、図8の性に関する悩みや問題の相談をする相手として、「保健所や保健センター」と回答した者は1割程度であり、「医療機関」の2割程度を下回る結果である。このことから、今後、公的機関における相談事業の認知度を上げていくという点からも、学校教育において連携を深めることが必要と思われる。

調査協力

札幌市保健福祉局
 札幌市中学校長会 保健体育部会
 札幌市高等学校長会
 北海道大学大学院医学研究科社会医学専攻予防医学講座国際保健医学分野研究室